

## 環境未来館 ビオトープ物語 ㊦



### 「未来の泉を育てる会」結成

市民の皆さんと一緒に始めたビオトープの掘削作業は、4か月かけて平成16年10月に原型が完成しました。水は雨水を主体にしましたが、足りない分は水道水を補充しています。ビオトープは閉鎖水域では循環しません。水を動かし、流れを作る必要があります。風力発電と太陽光発電を電源に循環用のポンプを設置しました。未来館周辺の動植物をできるだけたくさん採集して移入しました。メダカ、ドジョウ、ヌマエビ、フトイ、ハス、セリ、ガマ、ミゾソバ、スイレン、ジュンサイ、ヒシ、じゅずだまなどです。その後、17年4月には市民の皆さんからビオトープの愛称を公募。未来の泉という素晴らしい名前をつけてもらいました。ビオトープに関心のある市民や子



供たちを中心に「未来の泉を育てる会」を結成。40名ほどのメンバーが集まり活動を続けています。毎月(1月~3月を除く)第一土曜日にビオトープの整備や研修会などを行っています。

最近の例会の活動ぶりをみてみると

8月7日(土) 夏休み中でもあり、家族連れや育てる会の会員ら計26名が参加しました。西谷アドバイザーから「未来の泉」作りの経過、その後の様子、未来の泉で観察できる「神戸の守りたい生きもの百選」の話を聞きました。その後、参加者が生き物を採取して観察しました。4月に放流したカワバタモロコ(100匹)は6月頃に孵化した稚魚がたくさん

いました。(マ)ドジョウも増えているようです。通常作業として、オオアカウキクサの除去(あまり多くなると太陽光がさえぎられ水中の植物の光合成が妨げられる)、オオカナダモの刈り取り、池の近辺の雑草の除去などをしました。また、きょう付け(8月7日)の神戸新聞に掲載された森尾君兄弟(小4)に講師になってもらい、昆虫や魚の話を聞き勉強しました。(写真=8月7日の活動風景)

このように、毎回ビオトープで自然観察を楽しんでいます。関心のある方の参加を歓迎します。(グループわ 三島 隆夫)

## カレッジで生物多様性フェア

10月29日 卒業生・市民の参加を

名古屋で開かれるCOP10にちなんで、「生物多様性交流フェアIN KSC」が10月29日(金)、シルバーカレッジで開催されます。カレッジと神戸市環境局が主催。食と農・里山・ビオトープなどに取り組むグループが、生物多様性について議論を深め、カレッジから世界にメッセージを発信しようというものです。

生環コースの合同授業として行われますが、分科会では卒業生による研究発表が多く、グループわも支援しています。事務局では「卒業生や市民、NPO関係者にぜひ聴いてほしい」と呼びかけています。フォーラムの内容は次のとおりです(10月1日現在)。敬称略。

29日第1部 10:00~12:00(カレッジホール)

基調講演「生物多様性と私たちの暮らし~みんなつながりあって生きている~」中瀬勲(兵庫県立人と自然博物館副館長) 特別報告「生物多様性神戸戦略について」武田義明(神戸大学大学院教授)

第2部 分科会 13:00~14:30(学習室など)

「里山保全活動と生物多様性」発表=大谷敏行(生11)

道満俊徳(生13) 進行=谷口博(生環サポーター)

「食と農と生物多様性」発表=瓜生隆宏(県土地改良事務所) 辻村允夫(生8) 進行=土井敏男(市環境局)

「野鳥の保護と生物多様性」発表=北野光良(湊川中学校) 茅中英一(生11) 進行=井上清仁(日本野鳥の会兵庫)

「ため池から考える生物多様性」発表=大嶋範行(市環境局) 田下日順(生10) 進行=菅田忠志(生11)

「ビオトープ活動と生物多様性」発表=三島隆夫(生8) 金下玲子(阪神・都市ビオトープフォーラム) 進行=戸田耿介(生環サポーター)

「生物多様性と環境教育」ビデオ上映 ノリカちゃんとコウノトリ 発表=南形徹(生14) 藤原昭宏(生13) 西谷寛(空と海の約束プロジェクト) 進行=松本朱実(動物教材研究所)

第3部 懇親会 15:00~16:30(学習室3・4) 分科会の報告の後、お茶を飲みながら交流。自由参加。

ロビー展示(18日~29日) 写真展「神戸の海は宝箱」 宮道成彦「里山の動植物たち」今給黎靖夫 パネル展示「生き物百選」「カワバタモロコの保全」「ため池の生物多様性を守る」 映画「田んぼ」上映

六甲山エコハイク 30日(土) 布引の滝から市ヶ原をめぐる3時間のコース。参加者は予約の50人。

\*問い合わせはカレッジ事務局(743-8100)まで。